

A 相当成果が上がった B ほぼ目標を達成した C あまり成果が上がらなかった D 目標の半分にも満たなかった

重点課題 重点目標	実態及び今までの指導内容	具体的目標・計画	評価指標	評価		次年度への課題と 今後の改善方策			
				活動計画の実施状況 評価指標による達成度	総合評価				
1 基本的 生活習慣の 確立	(1)	a	交通安全指導の徹底。 登校時には校門前交差点での立哨指導を実施。各学期に車体検査を行う。	ア	交通事故ゼロを目指す。	毎朝、校門前の交差点において登校指導を実施したが、交通事故の被害者となることがあった。	C	警察等と連携を図り、事故ゼロを目指す。	
		b	挨拶運動やこえかけの実施。 生徒会を中心に、体育部による清掃活動とともに登校時の挨拶運動を実施。また、一日を通して生徒との会話をすすんで行う。	イ	社会生活を送るうえで必要なマナー(挨拶等)が身に付いたか。 また、生徒間、生徒と教師間のコミュニケーションが活性化したか。	毎朝、生徒会・バスケットボール部・野球部を中心に清掃活動と挨拶運動を実施した。近隣住民の評判も良くなった。この運動を通して、生徒相互、生徒と教職員間のコミュニケーションが深まった。	B	他の部からの参加、自主活動として一人でも多くの生徒の参加を促すことが今後の課題である。	
		c	遅刻指導の徹底。 各学期で遅刻早退が10回を2回超えた生徒に対しては、保護者と生徒課長が面談を実施。	ウ	昨年度より遅刻者数を減少させる。	月平均の遅刻者数は月によって異なるが、前年度より若干改善された。遅刻早退が各学期で10回を超えた生徒の保護者とは、すべて面談を実施した。	B	来年度も指導を徹底させ、遅刻者数の減少を図りたい。	
		d	毎月1回の服装頭髪指導の徹底。	エ	100%を目指す。	頭髪指導は毎月、徹底して指導することができた。	B	違反者の数が減少するように取り組みたい。	
		e	ネクタイ(男女)の常時着用を目指す。	オ	100%を目指す。	ほぼ目標を達成することができた。	B	着用率100%を目指したい。	
		f	いじめ、暴力行為をなくす。	カ	いじめ及び暴力行為による特別指導ゼロを目指す。	目標を達成することができなかったが、事後指導を徹底し、同一人物が再度行うことはなかった。	C	来年度もゼロを目指したい。	
		g	携帯電話によるトラブルをなくす。 ホームルーム活動等で携帯電話使用時のマナーの徹底をはかる。	キ	携帯電話の使用時のマナーが身に付いたか。	ほぼ達成することができた。	B	来年度も指導を徹底させ、違反者数の減少を図りたい。	
	(2)	教室・廊下の整理整頓が、一部でまだ不十分である。	a	ロッカーの上や机の上を片づけること、ゴミは必ずゴミ箱に捨てることの徹底を図る。	ア	ロッカーの上や机の上に余分なものが残されていないか。 ゴミが床などに落ちていないか。	ロッカー周辺の整理やゴミ捨てはかかなりできているが、一部の生徒が机上に私物を放置したままである。	B	教室移動の際、机上に私物を残さないように習慣づけを図りたい。
	(3)	清掃に取り掛かるのが遅い生徒や、分担場所に行かない生徒が少数だが見られる。	a	一人一人に清掃の仕方を丁寧に指導し、全員が各担当場所で清掃活動に励むように指導する。	ア	全員が真面目に丁寧に清掃活動に取り組めたか。	ほぼ全員の生徒が担当場所に移動しているが、その後の清掃活動ができていない生徒が一部で見られる。	B	全員が清掃活動に取り組めるよう、美化委員を中心に呼びかけていきたい。
	(4)	不登校傾向や不安を抱えて登校している生徒がいる。保護者との連絡はよく取ってきた。	a	家庭と定期的に連絡を取り、孤立感を持たせない。専門機関との連絡や調整を図る。悩み相談ボックスを活用する。	ア	生徒や保護者と信頼関係が築けたか。	養護教諭や担任等との連絡を取りながら、対応を相談してきた。保護者と教員の信頼関係は築けたと思う。	B	心の相談ボックスを設置したが、ごみが捨てられるばかりで機能しなかった。相談ボックスに代わるものを、考えたい。
	(5)	自己の権利は主張するが、周囲の人権に対して配慮に欠ける生徒がいる。これまでも、教育活動のあらゆる場面で指導してきた。	a	人権学習のさらなる充実を図る。	ア	教材研究に創意工夫を凝らしながら、年間5回以上の人権学習を実施する。	教材に工夫を凝らし、年間7回(3年は6回)の人権学習HRを実施した。多くの生徒が真摯に取り組んだ。	B	生徒の実態に合わせてさらに教材研究や開発を進めていくことが必要と思われる。
			b	人権啓発のための人権展示を実施する。	ア	校外内において年間2回以上の人権展示を実施する。	板高祭での展示と板野町の解放文化祭に水平社宣言をテーマとする展示を行うことができた。	B	内容の充実と展示の作成に多くの生徒を参加させていくことが今後の課題である
	(6)	生徒の実態は多様化しており、家庭や中学校との連携は必要不可欠である。そこで、家庭と学校・中学校と密な協力体制作りとしてのPTA活動の活性化をはかる。	a	PTA総会等の内容を充実し、出席者の増加を図り、学校理解のための機会とする。	ア	PTA総会の内容は充実向上したか。 PTA総会時の保護者来校を家庭との連携のために利用できたか。	PTA総会時の後援会等の内容は好評であったが、総会への参加は例年と同程度で増加させることができなかった。	B	内容のさらなる充実と保護者の意見を反映させることができるように、PTA役員を中心に各行事への積極的な関わりをもっていただけるよう工夫する。

重点課題 重点目標	実態及び今までの指導内容	具体的目標・計画	評価指標	評価		次年度への課題と 今後の改善方策
				活動計画の実施状況 評価指標による達成度	総合評 価	
2 基礎基本を重視した確かな学力の育成	(1) 教材の工夫・精選をし、授業方法の改善に取り組むと共に、とわかる授業の展開をした。また、学校行事を精選することにより、授業時数を確保した。	a 授業公開週間を設けることで授業方法や内容の改善をし、教科の楽しさをわからせる授業展開をする。	ア 授業評価で、70%の生徒が授業に満足したか。また、授業の内容を理解し、自ら問題演習に取り組むことができたか。	約83%の生徒が、「満足」または「まあまあ満足」と回答し、良好な結果が得られた。	A	次年度も継続していきたい。
		b 授業の受け方やノートの取り方、予習復習の仕方などのための入門講座を年度当初の1年生に実施する。	ア 新入生を対象に年度当初実施することができたか。また、生徒にとって満足できる内容であったか。	確かな学力の育成に係る実践的調査研究を文科省より指定を受け、学び直しを実施でき、学習への動機付けにもつながった。	A	次年度も調査を継続し、よい方向にもってきたい。
		c 学校行事を精選し、より多くの年間授業時数を確保する。	ア 単位数あたり30時間以上の年間授業時数を確保できたか。	ほぼ確保できたが、学校行事の精選がより必要。	B	次年度も継続していきたい。
		d 週末課題の実施とテスト前の自主学習時間(チャレンジタイム)の実施により、学習時間を確保する。	ア 家庭での学習時間が前年に比べ増加したか。また、前年に比べて学習時間が増えたか。	12月の生活実態調査では、前年に比べ約38分、前年に比べ約31分減少した。	B	家庭での学習時間を増加させる方策を考えていかなければならない。
	(2) 生徒の進路の興味・関心や適性に沿った履修指導を行い、卒業までの選択履修の展望を示した。	a 生徒対象の科目選択の説明会実施するとともに学年団による科目検討会を開催する。適切な科目選択をさせるとともに、教育課程の改善と充実に努める。	ア 学校評価アンケートで、教育課程の充実度を70%以上にする。また、教育課程の内容を理解できたか。	「充実している」または「だいたい充実している」と答えた割合は、教員で約85%、生徒で約72%、保護者で約85%であった。	B	科目選択のガイダンスを充実させると共に、より良い教育課程の編成に努めたい。
		b 新教育課程に向け、学校設定科目他、教育課程の見直しを進める。	ア 基礎科目の設定をはじめ、各教科で新教育課程に向けての原案を作成する。	教育課程・学力向上委員会や教科会を開き、新教育課程の編成に向けて、H26年度の原案を作成した。	A	大学入試等の動きも配慮しながら、本校に適した新教育課程を編成していきたい。
	(3) 多様な進路を希望する、生徒の特性や個性に応じた進路指導の充実に努める。	a 生徒の特性や個性に応じた進路指導の充実に努める。	ア 進路情報誌を活用した啓発活動の活性化を図ることができたか。	学年の状況に応じて実施できた。	A	定期的かつ効果的なタイミングでの情報提供をしたい。
			イ 学年集会やHR活動を充実させ、外部講師を有効に利用することができたか。	学年集会等は効果的に利用できたが、外部講師の有効利用はできなかった。	A	外部講師の有効利用を考え、全職員への紹介等もしていきたい。
		b インターシップの実施による進路意識と学習意欲の向上を図る。	ア キャリア教育を中核に据えた総合的な学習の時間の再構築ができたか。	キャリア教育観は浸透してきたが、再構築までは至らなかった。	B	総合的な学習の時間の再構築をした。
			c 進路ガイダンスを充実させる。	ア 年間1回以上のオープンキャンパスへの参加ができたか。	休業中の課題としてオープンキャンパスへの参加を奨励できた。	A
	イ 大学や専門学校の講師による模擬授業や年間2回の全校生徒を対象とした進路ガイダンスの実施ができたか。	生徒の実態に応じて内容を工夫し、実施した。		A	より生徒の実態を反映した実施計画を立案する。	
	(4) 家庭での学習習慣が確立できていない現状を改善する。	a 定期的な生活実態調査の実施と実態に即したクラス単位の指導補助をする。	ア 効果的なタイミングで情報提供できたか。	計画通り、各定期考査前に実施できた。	A	クラス指導に必要な資料や情報を提供するとともに、共有化を図りたい。

重点課題 重点目標	実態及び今までの指導内容	具体的目標・計画	評価指標	評価		次年度への課題と 今後の改善方策
				活動計画の実施状況 評価指標による達成度	総合評 価	
2 基礎基本を重視した確かな学力の育成	(5) 基本的な学力の充実と学習習慣の定着を図る。	a 補習への参加率の向上と出席率の維持を図る。	ア 補習登録の複数化と授業内容の学習到達度別開講を実施できたか。	3学期制に応じた形での登録複数化を実施した。	B	参加率の向上を図りたい。
		b 校外模試の積極的な参加を促す。	ア 年間1回の全員受験の実施ができたか。	計画通り1回の全員受験を実施できた。	A	継続的に全員受験を実施したい。
		c 学力向上と進路実現をめざす。	ア 「ステップアップウィーク」の充実を図れたか。	自習用プリントを配布するなど、計画通り実施できた。	A	学習習慣の確立につとめたい。
			イ 5日間の自主学習会が実施できたか。	計画通り、盆前後で5日間、1日5時間の自主学習会を実施できた。	A	参加者の倍増化を図りたい。
			ウ 2泊3日以上での学習合宿が実施できたか。	他校と合同での合宿を実施した。	A	単独での効果的な実施のあり方を模索したい。
			エ 「チャレンジタイム」を通じて、家庭学習への連携強化を図ることができたか。	課題等の提示を含め、効果的に実施できた。	B	家庭学習ゼロの生徒割合を半減させたい。
			オ 各学年とも年間2回以上の進路ガイダンスが実施できたか。	ホームルーム活動や総合的な学習の時間を利用し、5回以上の実施ができた。	A	大学・専門学校等と連携しながら、継続的に実施したい。
			カ 大学・専門学校等による校外進学ガイダンスへの積極的な参加の呼びかけができたか。	予定通り実施したが、オープンキャンパスへの参加が主流となってきたため、参加者は減少した。	A	オープンキャンパス参加者の増加に伴い、校外ガイダンスを縮小していきたい。
	キ 学び直しの時間を通して中学段階からの基礎学力強化を図ることができたか。	計画的に実施することができた。	A	単年で終わらないように、継続的な実施をしたい。		
	(6) 希望進路の実現率を向上させる。	a 進路決定率を向上させる。	ア 進路情報誌、学年集会等のあらゆる機会を通しての啓発ができたか。	効果的な実施ができた。	A	学年単位での集会をより効果的に利用していきたい。
			イ AO入試制度、推薦入試制度の有効活用ができたか。	国公立大および私立大学で効果的な利用ができた。	B	次年度も継続的に利用したい。
			ウ 家庭学習の習慣づけを図ることができたか。	あらゆる機会を通じて啓発してきた結果、長時間学習している生徒の割合が伸びた。	B	学習時間ゼロの割合を半減させたい。
	(7) ホームルーム活動において、学習意欲の向上や進路実現をめざし努力できる態度をそだてる。	a 学習意欲の向上や進路決定意識の向上を図る。	ア 学習や進路に関する興味が高まったか。	学年集会やホームルーム活動において進路の現状や今後の取り組みについて理解できた。	B	進路実現に対する取り組み意欲を向上させる。
	(8) 精神の安定や登校できるようになることに重点を置き、登校できるようになってから、補講を行ってきた。	a 生徒の心身状態にあわせ、負担にならない程度の課題を、各教科担任からもらい、担任が家庭訪問時に持っていく。	ア 生徒・保護者に学校とつながっている気持ちを持ってもらえたか。	養護教諭や担任等との連絡を取りながら、対応を相談してきた。保護者と教員の信頼関係は築けたと思う。	B	心の相談ボックスを設置したが、ごみが捨てられるばかりで機能しなかった。相談ボックスに代わるものを、考えたい。